

名古屋学院大学「ローカリティと宗教」研究会主催
アジア世界のローカリティと宗教
2022年12月6日(火)開催

名古屋学院大学(名古屋市熱田区熱田西町、学長：赤楚治之)では、名古屋学院大学「ローカリティと宗教」研究会主催で、2022年12月6日(火)に「アジア世界のローカリティと宗教」と題して一般公開講演会を開催します。

本講演会では、会田大輔氏、大野旭(楊海英)氏を招き、第1部では、会田大輔氏が「皇帝が寺院の奴隷になったわけ-梁武帝の捨身-」、第2部では、大野旭(楊海英)氏が「チベット仏教世界の今-『宗教の中国化』と国際社会-」をテーマに講演します。

一般公開講演会
【 アジア世界のローカリティと宗教 】

- 日時：2022年12月6日(火) 13:00 ~ 14:30
- 会場：名古屋学院大学 名古屋キャンパスしろとり 希館 201 教室
(名古屋市熱田区熱田西町1番25号)
- 講演：

第1部 13:05 ~ 13:45

皇帝が寺院の奴隷になったわけ — 梁武帝の捨身 —

講師：^{あいだ だいすけ} 会田 大輔 氏

(明治大学・東洋大学・立教大学・山梨大学・京都芸術大学非常勤講師)

概要：5~6世紀の中国は、遊牧民が支配する北朝と、漢人が支配する南朝の二つに分裂する南北朝時代であった。この時代、南朝・北朝ともに仏教が広く流行し、王権と密接に結びついていた。特に南朝の梁(502~557年)では、初代皇帝の武帝(在位502~549年)が仏教に傾倒し、皇帝菩薩と呼ばれるほどであった。さらに梁の武帝は、寺院に身を捧げて奴隷となる捨身をも断行している。本講演では、梁の武帝の捨身について、先行研究を踏まえた上で、政治・外交面の意義について論じていきたい。

第2部 13:45 ~ 14:25

チベット仏教世界の今 — 「宗教の中国化」と国際社会 —

講師：^{おおの あきら よう かいえい} 大野 旭(楊 海英) 氏 (静岡大学人文社会科学部教授)

概要：仏教にさまざまな宗派があり、そのうちのひとつがチベット仏教である。世界の屋根たるチベット高原を中心にモンゴル高原とシベリア南部、それに満洲平野と東トルキスタン(新疆)を含む広大な地域を研究者は「チベット仏教世界」と呼んでいる。チベット仏教世界は、チベットと南モンゴル、それに東トルキスタンが中国に組み込まれたために、信仰の自由が奪われている。それでも、人々は仏教文化と精神を維持し、独自の地域文化の形成に取り組んでいる。およそ30年にわたる現地調査のデータを駆使し、最新の信仰形態について報告する。

- 受講料：無料 ※先着順・申込不要
- 主催：名古屋学院大学「ローカリティと宗教」研究会
- 問い合わせ：名古屋学院大学 国際文化学部 宮坂 清准教授 kmiyasak@ngu.ac.jp

※取材をご希望の場合は、12月2日(金) 15時までに広報室へご連絡ください。